

日本国際情報学会主催「第6回安全保障セミナー」実施報告

令和3年3月26日（金）、渡部悦和氏（元陸上自衛隊東部方面総監、元ハーバード大学・シニアフェロー、前富士通システム統合研究所安全保障研究所所長）を講師として招聘し、第6回安全保障セミナー（オンラインセミナー）を実施したので報告いたします。

コロナ禍のおり、年度末まで対面でのセミナー実施を追求してきましたが、首都圏の緊急事態宣言も3月21日まで延長され、やむなくオンラインでの開催との判断に至りました。オンライン開催ということで、遠方に所在する方も容易に参加できるという長所があり、国内では広島大学からの参加、国外ではドバイからの参加も得られ、より多くの研究者に参加の機会を作為できたのではないかと思います。

テーマを昨年度の「新世代の安全保障」に引き続き「新たな世代の戦い」と設定し、第6回の「安全保障シンポジウム」を企画いたしました。実施方法は、Zoomによるオンライン形式という容易に参加できる方式であったため、50名を超える参加登録が得られ、所望の目的は達成できたものと考えます。

1 実施日時

令和3年3月26日（金）17:00～18:30

2 実施方法

Zoom 使用によるオンラインセミナー

3 講師

元陸上自衛隊東部方面総監・陸将 渡部悦和氏

演題「全領域作戦（All Domain Operations）及び全領域戦（All Domain Warfare）」

講師略歴：1978年東京大学卒業後、陸上自衛隊に入隊。その後、外務省安全保障課出向、ドイツ連邦軍指揮幕僚課程留学、函館駐屯地司令、東京地方協力本部長、防衛研究所副所長、陸上幕僚監部装備部長、第2師団長、陸上



日本国際情報学会主催
第6回安全保障セミナー
(コロナ禍の折、ZOOMでのオンラインセミナーとして開催します)

日時：令和3年3月26日（金）
17時00分～18時30分
テーマ：新たな領域での戦い
— 全領域作戦（ALL-DOMAIN OPERATIONS）

講師 渡部悦和 先生

渡部安全保障研究所長
元陸上自衛隊東部方面総監・陸将
元ハーバード大学アジアセンター・シニアフェロー
前富士通システム統合研究所安全保障研究所所長
日本安全保障戦略研究所 上席研究員

参加費：無料
【申し込みは、下記の登録HPから①お名前、②ご所属、③ご連絡先（メールアドレス）をご連絡ください。登録後実施の週にZoomアドレスを送付致します。】
<http://gscs.jp/event/20210326.html>（登録HP）

幕僚副長を経て2011年に東部方面総監。2013年退職。防衛省退職後、ハーバード大学アジアセンター・シニアフェロー、富士通システム統合研究所安全保障研究所長を経て、自身で立ち上げた渡部安全保障研究所所長。

4 実施の概要

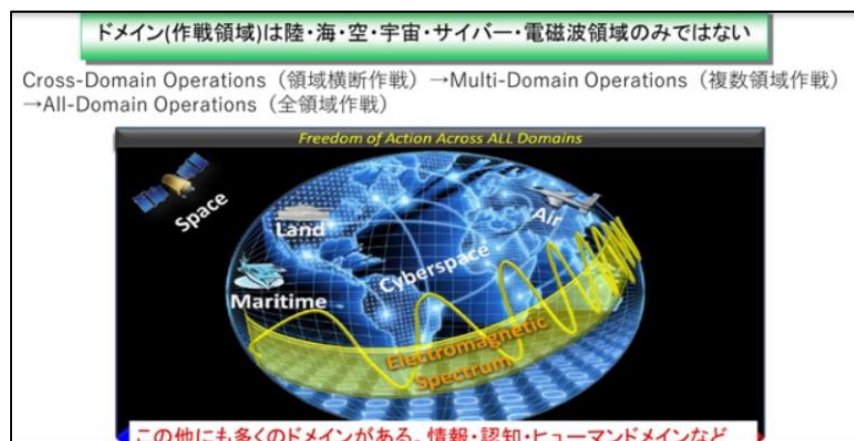
- 17:00 司会挨拶（安全保障研究部会長 佐々木孝博）
- 17:00～17:05 学会会長挨拶（日本国際情報学会長 近藤大博）
- 17:05～18:00 講話（「全領域作戦（All Domain Operations）及び全領域戦（All Domain Warfare）」）
- 18:00～18:05 休憩
- 18:05～18:35 質疑応答・意見交換
- 18:35～18:40 閉会挨拶（司会）

5 成果・所見

産官学の専門家等、約50名の参加登録を得て、第6回の安全保障セミナーを実施することができました。今回のセミナーは、コロナ禍のおり、対面形式でのセミナーの実施は断念し、オンライン形式により実施しました。オンライン形式であったため、講師の側からすると、聴講者の反応を伺うことができず、講話に対する理解の度合いを判別することができないなど、やり抜くさというものを感じざるを得なかったものと推察されます。しかしながら、実際に会場に赴く必要がないオンライン形式では、国内外を問わず遠方からの参加も容易であり、期待以上の参加者を得ることができました。そのような見地からすると、広く学会活動を認知していただくとの目的は達したものと考えます。

今後につきましても、対面形式・オンライン形式を融合したハイブリッド的なセミナーを実施できれば、双方の長所を生かし、短所を補うことができるものと考えます。

また、講話においては、既知の考え方では対応し難い、軍事・非軍事を融合された形の新たな世代の戦いを、軍事が所掌する全領域作戦と軍事のみならず国家の総力をあげた形



で実施される全領域戦という区分を行い説明がなされました。後半の部分では、その事例研究として2020年の米大統領選における情報戦・影響工作を取り上げ、その概要と問題点・対策についての講話がなされました。講師の非常に興味深い話をトリガーとして、オンラインによる質疑応答・ディスカッションでは、「情報戦における法的な問題」、「受動的な対応のみの我が国が攻勢的な対応すべきなのか」、「選挙インフラを軍事が関与して守るべきなのか」などの多岐にわたる質問がなされ、30分のディスカッション時間では足りないような白熱した議論が繰り広げられました。

セミナー全般につきましては、講師の許可を得て録画しておりますので何かの形で広く一般の方が聴講できるように処置していきたいと考えております。

最後になりますが、本セミナーの実施に関しまして尽力いただきました、準備委員各位及びオンラインの実施に関しまして多大なご支援を頂きました株式会社ソフト技研様に深く感謝を申し上げます。

(安全保障研究部会長：佐々木記)